

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第2号

平成26年12月9日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

本泉寺(伊丹市)に小楠公の墓

江戸時代、天保年間の伊丹古絵図に楠公塚

楠正行の墓は全国に7か所

第1回例会で、早くも、楠正行にかかわる新たな情報をもたらされました。

会員の真木修氏が、伊丹市を訪れた際、本泉寺境内に楠公一族の墓を発見し

たと、写真を手に、興奮気味に報告されました。

墓は境内の一角に、三基並んであり、中央に「前三国守楠公の墓」、向かって右に「従四位上小楠公の墓」、向かって左に「楠正貞墓」と、それぞれ刻まれています。

写真(上)は、楠公一族の墓の全景図、写真(下)は右側の楠正行の墓です。(いずれも真木氏撮影)



楠正行の墓は、小楠公墓所(四條畷市)、宝篋院(京都市)、往生院(東大阪市)、山手町(東大阪市)、正行寺(宇治市)、甕島(薩摩川市)の6か所が知られています。兵庫県で七番目の墓が見つかったこととなります。

私は、早速、伊丹市教育委員会、伊丹市立博物館に連絡を取りました。同館学芸員の佐々木氏の話では、楠公一族の墓がなぜ本泉寺にあるのか、その理由については詳細が分からないということでした。ただ、参考資料として『伊丹の寺院』(伊丹市立博物館友の会発行)に掲載されている本泉寺の沿革を送っていただきました。

沿革によると、一説には、本泉寺は永禄三年(1560)、戦国時代の真ただ中、松永久秀や三好三人衆との合戦が相次ぎ、当時戦乱で亡くなった多くの戦没者を弔うために創立したといわれています。

本堂は伊丹市内最大で、境内西側鐘楼の前に楠公一族の墓があります。

江戸期、顕彰のため建墓か

沿革には、「楠正成以下楠一門は湊川で戦死しており、当山の墓はその後の人々が顕彰の意味で建てたものと考えられますが、天保年間(1830年代：筆者)の伊丹古絵図には境内に楠公塚が載っているので、江戸時代には既に立っていたと思われます。その後行方が不明でしたが、大正十二年、先代日義聖人(33世)の代に西側土塀を改築した際、その下側から竿の部分三基が発見され、現在見られるように祭祀しなおしたものです。」とあります。

なお、中央、前三国守楠公の墓石の、向かって右側横に、湊川で楠木正成とともに自刃した弟の楠木正季「楠撰津守従五位上楠正季公」の名も刻まれています。

◆本泉寺 〒664-0846 伊丹市伊丹2-3-37

TEL 072-782-1780 JR「伊丹駅」西すぐ

(文責：「四條畷楠正行の会」代表 扇谷 昭)